

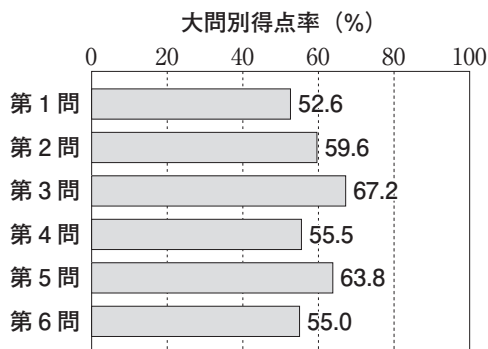
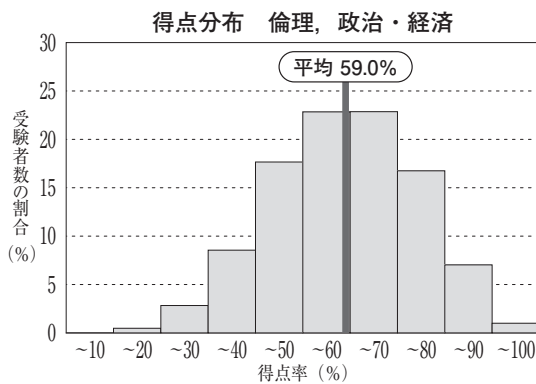
倫理, 政治・経済

1年間では最高の出来だが、本番の平均点にはまだ遠い。残りの期間を悔いのないように。

I. 全体講評

今回の「最終12月センター試験本番レベル模試 倫理, 政治・経済」の平均点は、59.0点と、今年度を実施した試験のなかでは最も高い結果となった。東進のセンター試験本番レベル模試は毎回本番レベルで出題されるので、ほぼ回を追うごとに平均点が上昇してきたのは、順調に学習を進めてきた結果と言える。もっとも、センター試験本番の平均点(2017年度は63.01点)にはまだ差がある。残された時間は極めて限られているが、ここからのラストスパートでなんとしてもプラス10点は目指したい。

今回の模試を受けて、自分の苦手箇所が明らかになった受験者も多いだろう。あれもこれもではなく、手当すべき箇所を中心に底上げを図ってもらいたい。



II. 大問別分析

第1問 青年期・現代社会分野

現代思想で多くの受験者が失点した。

青年期・現代社会分野全体の得点率は52.6%と、倫理分野では最も低かった。通常は得点源になることの多い分野だが、センター試験で出題されたことのないドゥルーズなどが問われた(問1 [1])ことが大きかった。近年のセンター試験ではこうした出題も見られるので、用語集を確認してもらいたい。資料読解問題(問4 [4], 問5 [5])はよく出来ていた。

第2問 源流思想・日本思想分野

まずまずの出来だが、押さえるべき知識の漏れも見られる。

得点率は59.6%と、まずまずであった。正答率が低かったのは、近世思想(梅岩・尊徳・藤樹・仁斎)について問われた問4 [9]と、折口信夫について問われた問6 [11]である。目が行き届きにくい思想家たちではあるが、出題頻度は高い。知識の漏れを確実につぶしていく必要がある。

第3問 源流思想・西洋近現代思想分野

おおむねよく出来ていたが、標準レベルの理解がおぼつかない設問もあった。

大問の得点率は67.2%と、全分野を通して最も高かった。比較的難問が少なかったという事情もあるが、学習の成果が出たと評してもよいだろう。ただ、ヘーゲルについて問4 [16]はごく標準的な内容であるにもかかわらず、正答率が低かった。入念に復習してもらいたい。ロールズについて問われた問6 [18]は、3つの短文すべてを正誤判定しなければならず、確実な理解が求められた。

第4問 選挙と政党

重要事項についての知識と理解が欠落している受験者が多く見られる。

大問としての得点率は55.5%と、物足りなかつ

た。最頻出と言える**社会契約説**についての問8 [27]で正答できた受験者が3割ほどにとどまったのが痛い。権力分立といえばモンテスキューと即断してしまった受験者は、解説を熟読して反省してもらいたい。選挙制度についての問5 [24]では、最高裁による違憲判決という重要事項を押さえていれば正答できたはずだが、正答できたのはやはり3割ほどしかいなかった。

第5問 市場機構

全体としてはまずまずだが、過去問をよく学習していれば防げた失点も。

得点率は63.8%と、政治・経済分野では最も高かった。正答率が最も低かったのは**市場の失敗**についての問4 [31]で、過去にも繰り返し同趣旨の誤文が出題されているのだが、多くの受験者は見抜けなかった。センター試験の過去問をしっかりと学習することが大事である。

第6問 冷戦と日本の戦後外交

地図に弱い場合は要注意

大問としての得点率は55.0%。やや細かい点が問われた問1 [33]で正答率が低かったのはやむを得ないが、問3 [35]で「鉄のカーテン」の位置を地図から選択できない受験者が半数近くいたことには驚かされた。地名・国名を地図で確認する癖をつけよう。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆残された期間にやるべきこと

公民科目はどうしても後回しになりがちなので、現段階で万全の態勢で臨んだという者は必ずしも多くないだろう。確かに、他教科と比べると、「最後の悪あがき」次第で大きく結果が左右しうる科目ということは言える。残された期間を最大限に有効活用しよう。

現実問題として、まだ全分野の学習を終えていない者も少なくないはずだ。しかし、そうした者が今から講義型の参考書を慌てて読んだり、一問一答型の問題集などをせっせと暗記したりしても、大した効果は期待できない。こうした学習は時間的にロスが大きいのだ。今は**過去問**をつぶすことに注力しよう。

もちろん、分からない問題がいくらかでも出てくることだろう。しかし、気にすることはない。いきなり解説を読み、理解できない事項については用語集などで調べよう。それでポイントが納得できれば十分だ。インプットを終えたあとにアウトプットのトレーニングをするのではなく、アウトプットしつつインプットしていくのである。

◆センター試験本番に向けて。

センター試験本番では、すべての設問に本気で取り組もう。当たり前のように思われるかもしれないが、これまでの模擬試験でケアレスミスが一つもなかったと言える者はまずいないはずだ。実力で解けない問題については仕方ない。しかし、**本来なら解けたはずの問題を落とす**というのは本当にもったいない。こうしたものを一つでも減らすには、気迫と執念と集中力で臨むしかない。成績がいい受験生というのはケアレスミスも少ないものだ。これに反して成績の振るわない者ほど、実力すら出し切れていない。実力を出し切る執念が勝利につながるのだと、肝に銘じて頑張ってもらいたい。健闘を祈る。